

東京都教育委員会基本方針

基礎的な学力の向上を図り、子どもたちの個性と創造力を伸ばす教育を重視する。

中野区立学校教育の指導目標

- 1 小中連携教育の一層の推進を図るため、各校において教育課程を工夫し、具体的な教育活動を展開する。
- 2 学習評価に基づいた指導の工夫を図るとともに家庭と連携し、学習内容の確実な定着を図る。
- 3 発達の段階や学びの連続性をふまえて意図的・計画的な教育活動を推進する。

学校の教育目標

- すすんで学ぶ人になろう
- 心ゆたかな人になろう
- 社会につくす人になろう

学校、地域の実態

規律正しく伝統のある校風。住宅地域で安定した地域環境

地域・保護者の期待や願い

知徳体のバランスのとれた生徒の育成を望んでいる

各教科の指導の重点

- ・各教科とも工夫のある授業の実施により主体的に学ぶ力と基礎的・基本的な内容を確実に習得させる。
- ・言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ・数学科・理科・英語科による少人数授業を展開する。学力向上アシスタント等を活用して、一人ひとりの生徒への的確な指導を実践する。
- ・コンピュータ機器等を活用して、さまざまな情報を収集、選択、活用できる能力を育てる。
- ・評価の工夫・改善に努め、指導と評価の一体化を図る。

学校経営方針

- 1 「確かな学力」を身につけさせる学校を目指す
- 2 体験を通し、豊かな心を育てる学校を目指す
- 3 自己有用感を育み、母校への誇りを持たせる学校を目指す
- 4 開かれた学校を目指す

道徳教育の指導の重点

- ・道徳の授業を要とし、全教育活動を通して、人権を尊重する態度を育てるとともに、自他の生命を尊重する心情と判断力を育てる。
- ・心身の健康を保持増進するため、スクールカウンセラー等と連携しながら、計画的に道徳教育を実践する。
- ・好ましい社会的な体験を通して、規範意識とボランティア精神を育成する。
- ・人との関わり方を学び、よりよい人間関係を築く姿勢を養う。

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・全体テーマ「共に生きる」
1年「自然と生きる」2年「社会と生きる」3年「未来と生きる」
- ・社会を知り、自分のことを振り返り社会と関わる力を身につけさせる。そのためパソコンの利用や読書を取り上げる。
- ・校外学習を校外の体験的調査、学習の場として位置づけ、体験的に課題解決を図る。

本校のとらえる「確かな学力」

- ① 教科指導の充実を図り、生徒の学力を伸ばす
- ② 家庭学習を定着させる
- ③ 読書指導の実施
- ④ 「総合的な学習の時間」の充実
- ⑤ 放課後学習教室や学習相談機能の充実

特別活動の指導の重点

- ・生徒一人ひとりが集団の一員としての責任を果たし、よりよい集団を築こうとする自主的、実践的な態度を養う。
- ・生徒一人ひとりがコミュニケーションを図りながらお互いを理解し合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を養う。
- ・特別支援学級との交流をはじめとする人とのかかわりあいを通してコミュニケーション能力を育成する。
- ・防災教育を充実させ、自他の生命を尊重する態度と実践力を培う。
- ・ボランティア活動を実施し、地域や社会に貢献する心や態度を身につけさせる。

進路指導における指導の重点

- ・発達段階に即し、自己理解を援助し、生徒一人ひとりの個性・能力に応じた指導の充実を図る。
- ・地域と連携した体験的な活動を通して、主体的に進路選択できる能力と態度を育てる。
- ・ガイダンス機能を充実させ生徒への支援を行う。

生活指導における指導の重点

- ・時間、身なり、言葉遣い、あいさつの4点を重点的に指導して基本的な生活習慣を確立させる。
- ・生徒会活動や学校行事の活性化や小学校との交流を推進することなどによりコミュニケーション能力・自他を尊重し合う心情と態度を養う。
- ・生徒理解に努めるとともに教育相談活動の充実を図り、いじめや不登校等に対して、関係機関とも連携を図りながら予防と早期発見、早期解消を実現する。
- ・保護者、地域、関係機関と連携しながら、非行防止や犯罪から身を守る態度を養う。
- ・関係機関と連携しながら、安全教育を推進し、生徒自らが安全を確保する実践的な態度を養う。

本校の授業改善に向けた視点

◇教育課程編成上の工夫	◇指導内容・方法の工夫	◇評価・評定の工夫	◇校内研修の工夫	◇家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携を踏まえた教育計画の作成 ・朝読書の実施(通年) ・長期休業中の学習教室 ・2学期制を活かした学習活動 ・年間を通しての放課後学習教室 ・家庭学習の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導、学力向上アシスタント等の活用 ・補充教室の実施 ・ICT、視聴覚機器の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化 ・評価計画の作成 ・面談の実施 ・定期考査後「学習の振り返り」の実施 	<p>「小中連携を通じた魅力ある学校づくり」を研究主題とし「学習」「生活」「キャリア」の3つの分科会に分かれ、研究に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第二土曜公開や道徳授業地区公開講座等の学校公開の実施 ・セーフティ教室の実施

(1) 国語科

国語科の重点

- 朝読書を中心に、読書指導をすすめ、本に親しませる機会を多くする。
- 百人一首や教科書に出てくる古典作品を暗記させ、古典を身近なものにする。
- 授業中に自分の考えを発表する機会を多くし、話す力と、聞く力を身につけさせる。
- 書く力をつけるために、作文に取り組ませる。
- 書き初めコンクールでは、全員の作品を展示し、お互いの作品を鑑賞する。
- 「スピーチ」を授業に取り入れ、話す態度と聞く態度を身につけさせる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の観点別正答率は、全てにおいて、目標値をクリアしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をする生徒が決まってきて、授業内での取り組みに少々課題が見られる時がある。、授業をする上での工夫が必要になっている。 ・基礎的な読解力はあるが難しい内容になると発言が少なくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題は必ず点検を行い、家庭学習の定着を図る。 ・「すらすら基本文法」や「漢字のプリント」、「ワーク」を活用して、基礎学力の定着を図ると同時に、応用的な学力の向上を目指す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の観点別正答率はすべての分野において、目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字ノート」を使用し、復習・予習に個人で取り組めるようにしているが、定着できない生徒もいる。 ・授業内での取り組みに少々課題が見られる生徒がいるので、授業をする上での工夫が今年も必要になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇の宿題とし、小学校や1年・2年の習った部分から、夏休み後、「休み明け漢字100問テスト」を行う。 ・「漢字ノート」や「すらすら基本文法」、プリントを活用して、基礎学力の定着を図る。 ・人権作文、文章名人等を利用して、書く力を身に付けさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の観点別正答率はすべての分野において、目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長文や難解な文章を、最初から避けようとする。 ・書くことに抵抗がある生徒は減ってきているが、内容のレベルの向上が必要である。 ・人の前できちんと発表することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な小テストを繰り返し行い、達成感をもたせる。 ・難しい文章をじっくりと読む時間を作り、読み取る力、考える力を身につけさせる。 ・スピーチの時間を作り、話す態度と聞く態度を身につけさせる。

(2) 社会科

社会科の重点

- 社会的事象に関する基礎・基本が定着できるよう、ICTを含め各種教材を活用しながら学習する。
- 身近な事例をとりあげ、社会的事象への関心を高め主体的に学習する態度を育成する。
- 基礎的な知識を身につけ、それをもとに自ら考え表現できる力を身につけさせる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 区の学力調査の平均と比べると、どの項目も平均の範囲内にあるが、知識・理解の観点で区の平均を下回っている。 ◇ 授業に臨む姿勢は全体的に意欲的だが、学習習慣の定着に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 意欲的に課題に取り組める、落ち着いた学習環境を作るよう工夫する必要がある。 ◇ 知識の定着を図る必要がある。 ◇ 与えられた課題について、自分で考えさせる指導を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ICT、ワークやプリントなどの教材を使い学ぶ意欲を高める。 ◇ 単元のまとめに、小テストや暗記に重点を置く授業時間を設ける。 ◇ あいさつ、準備、発言など授業規律を徹底させる。 ◇ 一時間の授業の中で自ら考えさせる場面を設定する。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地理的分野では、区の調査をほとんどの項目で上回っている。それに対し歴史的分野のほとんどの項目では劣っており、分野によって理解に偏りが見られる。 ◇ 学習に臨む姿勢に大きな差があり、積極的に発言等をする生徒と、学習道具も用意せず、学習意欲に欠ける生徒も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 歴史的分野に関する興味・関心を高め、知識の定着化をはかる必要がある。 ◇ 学習規律や授業への学級のモラルを高め、生徒自ら学習に取り組もうとする姿勢を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ICT機器を活用して、画像や動画教材などを提示し、生徒の興味・関心を高め、理解を深めていく。 ◇ 単元ごとに知識の定着を確認するワークや、テスト等を行なう。 ◇ 学習規律を高め、学習や授業にどのように臨むべきかを常に意識させていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地理的分野の正答率が区の平均に比べて低い。 ◇ 基礎的問題は区の平均を下回っている一方で、活用問題は平均を上回っている。 ◇ 授業に臨む姿勢、学習習慣の定着に大きな差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 意欲的に課題に取り組む環境づくりを工夫する必要がある。 ◇ 基礎的な知識が身につけていないために、授業に参加できない生徒がいる。 ◇ 与えられた課題について、自分で考え、適切に表現させる指導の工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ グループワークや討論、授業後の意見文などを取り入れ、自らの学びや考えを表現したりまとめたりする機会を増やす。 ◇ 授業の中で小テストや暗記に重点を置く授業時間を設け、基礎的な知識の定着度を確認する。

(3) 数学科

数学科の重点

- 1, 生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒の身になっての授業展開をいつも頭に入れながら指導にあたる。
- 2, 計算や方程式の解法については、答えだけでなく途中の式を丁寧に書かせる指導を徹底し、表現する力を重視する。
- 3, 数量の関係や図形の性質などを考察し、見出した根拠をもって表現する力を育む。
- 4, 日常の事象を数学的にとらえたり、学んだ数学の知識を普段の生活に生かしたりして、数学が役立つことを実感させるよう指導する。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	◇学力調査では、どの観点も区の平均を下回る結果となった。基礎・活用別では、活用の力が平均を大きく下回っている。 ◇基礎基本の定着を重視した授業により、意欲をもって授業に取り組んでいる生徒が多い。	①既習事項の定着 ②反復練習の時間の確保 ③教材の工夫。	①・単元テストを年間指導計画にもとづき定期的に行う。 ・宿題を定期的に課し、家庭学習の習慣化を図る。 ②・週1時間の少人数の時間を利用し、十分な演習時間を確保する。 ③・様々な学力に対応できるように、基礎から応用まで幅広い問題を單元ごとに準備する。
	◇学力調査では、どの観点も区の平均を下回る結果となった。基礎・活用別では、活用の力が平均を大きく下回っている。 ◇既習事項が定着していないため、新しく習う内容が理解できていない。	①既習事項の定着 ②反復練習の時間の確保 ③少人数授業の効果的な活用	①・小テスト、単元テストを定期的に行う。 ・週末の家庭学習向けの宿題での家庭学習の習慣化 ②個の能力に応じた教材の工夫や課題の設定 ③指導者間の連携を密にし、授業の進度、生徒の情報を定期的に確認する。
	◇少人数授業の成果もあり、区の平均並みの学力を維持できている。 ◇既習事項の定着に時間がかかり、時間が経ってしまうところが多い。	①既習事項、基礎・基本の定着。 ②少人数授業の活用。 ③教材の工夫。	①単元テストを定期的に行い、学習内容の定着を確認する。週末には課題を出し、有効な家庭学習をさせる。 ②指導者間の連携を密にし、授業の進度、生徒の情報を定期的に確認する。 ③授業での問題数の確保と、応用問題などを積極的に取り入れ、幅広く生徒の学力に対応した教材を作成する。

(4) 理科

理科の重点

- ・実験や観察を通して、理科に対する関心や意欲を高めると共に、実験や観察の結果から気がついたことや規則性を見いだす。
- ・基礎知識を用いて、発展的な学習や問題に取り組む。
- ・少人数指導を活かした、きめ細やかな指導を行っていく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>◇学力調査では、基礎的な知識が目標値から大きく不足しているにも関わらず、応用では目標値に近い得点がとれているという逆転現象が起きている。</p> <p>◇全体の目標値は大きく不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を重視した授業作りと反復学習の実践を行う。 ・理科の関心意欲を高めるための授業作りを目指す。 ・表現力を高めるためのレポート作りや発表の実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入部で前時の振り返りを行う。 ・小テストを定期的実施する。 ・身近な現象について触れ、その原理について、実験や観察を通して学ぶ。 ・レポートの作成を定期的に行い、相手に分かりやすく、論理的に説明できる能力の向上を図る。
2年	<p>◇学力調査では、観察・実験の技能については目標値に達成しているが、自然事象への関心・意欲と知識・理解が目標値に対して大きく下回っている。</p> <p>◇基本的な学習の力についていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟別少人数指導の効果的に活用する。 ・身近な教材を活用して関心・意欲を高めていく。 ・基礎知識の定着を図る。 ・学んだ知識を組み合わせ、自分で問題が解決できるような「気づき」を得られる授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストや小テストを定期的に行い基礎学力の定着を図る。 ・少人数指導では指導者間の連携を取り授業の進捗や生徒の情報を共有していく。また、習熟別少人数を2・3年生で実施しているが、次年度からは1・2年生に実施した方が長期的には効果が上がるのではないかと。
3年	<p>◇習熟度別の少人数を導入したことにより、より生徒個々に応じた授業を行えるようになった。</p> <p>◇テストの結果から2年生の「天気」の単元が低い結果となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別に応じた授業作りや、教材の準備を教諭間で話し合い、実践する。 ・単元ごとの基礎を立て直すことを大きな目標にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのテーマごとに用いる授業数を決める。その後、授業ごとに、進行状況を確認し、必要に応じて、次のテーマまでの授業数の調整を行う。 ・生徒のレベルに応じた問題を用意し、授業のまとめとして行うことで、生徒個々が自分の力を確認できるようにする。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- ・ 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにする。
- ・ 様々な表現を通じて音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	◇小学校ごとの音楽教育の内容にばらつきがあり、ある程度の統一感を持たせる必要がある。楽譜の読み取り方がわからない生徒もいるが、活動は落ち着いて取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典理論、表現活動に必要な知識の不足。 ・ 歌唱活動におけるの音量をしっかりと出させること。 ・ 落ち着いて取り組むことができている授業体制を継続させていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の復習としてのプリント学習を実施。 ・ 実技に関しては各課題に対して達成感を得られるよう『本時のねらい』と『概ね満足できる状況』を伝え、各自の目標とさせる。 ・ 1時間の授業の中で個別又はグループ演奏の時間を設定して各自の音をチェックし、互いに聴き合い、全体の演奏技術向上を図る。
	◇音量を強化させることを中心に、より質の高い表現力を身につけさせる必要がある。		
2年	◇基礎的な能力、基本的な取り組む姿勢がまだ定着していない生徒がいる。そのため、集団としての豊かな音楽表現活動に結びつかないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示・説明を全員がきちんと聞くことができる授業の確立。 ・ 表現活動について興味関心が希薄な生徒への指導。 ・ 基本的な取り組み姿勢が定着していない生徒には集団での歌唱力を指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技に関しては各課題に対して達成感を得られるよう『本時のねらい』と『概ね満足できる状況』を伝え、各自の目標とさせる。 ・ 『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、パート練習の中でグループでの話し合い、意見交換の時間を設定し、演奏技術の向上を図る。
	◇歌唱力はおおむね良い。		
3年	◇段々と音楽活動の楽しさや達成感を理解してくるようになり、表現活動に対して積極性が出てきた。落ち着いて活動できる場面が増えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い音楽表現を身につけさせるために、広いジャンルに渡り、多様な音楽作品の鑑賞を取り入れていくことが必要。 ・ 積極性が出てきたので、さらに興味関心を引き付ける指導を心がけ、意欲的に活動させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技に関しては各課題に対して達成感を得られるよう『本時のねらい』と『概ね満足できる状況』を伝え、各自の目標とさせる。 ・ 『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、パート練習の中でグループでの話し合い、意見交換の時間を設定し、演奏技術の向上を図る。
	◇音楽表現の幅を広げるために、多様な音楽に触れる必要がある。		

(6) 美術科

美術科の重点

- ・ 絵画、彫刻、デザイン、工芸等の基礎知識を習得する。
- ・ 制作する楽しさ、鑑賞する楽しさを身につけ、日常で美術を身近に感じる心を養う。
- ・ 個々の作品への具体的な対応策を研究し、個性を伸ばす指導を充実させる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	表現活動に対して、関心、意欲を十分に持っている。しかし、発想や構想の手段や表現の技術的方法の理解が十分とは言えない。	ほとんどの生徒は授業にまじめに取り組み、自分のやるべき課題を自覚して、制作に取り組んでいる。一部進度が極端に遅い生徒や、作品をきれいに仕上げていく技能や、独創的なアイデアを生み出していく発想、構想の能力がやや弱い生徒が見受けられる。	自分の気持ちを自由に描く楽しさを育むため、アイデアを練る段階で、ヒントや参考資料を幅広く提示し、発想、構想の能力を高める。また、個別に的確な表現方法を提示し、時間配分を自覚させ、完成度の高い作品に喜びを見出させる。
2年	表現活動に対して、関心、意欲を十分に持っている。現時点では課題に対する関心は高く、自分なりの表現能力を発揮している。しかし、作業能力には、差異が見られる。	ほとんどの生徒が授業にまじめに取り組み、よりよい作品を創ろうと努力している。一方、ごく一部であるが集中して課題に取り組めず、作業が極端に遅い生徒がいるほか、丁寧に仕上げる力など、実技面の能力差が大きいように感じる。	生徒が興味を持てるように様々な資料を活用し、導入を充実させ、作品が完成するという喜びを見出させる。個々の生徒への目配りをより密にして、個性に応じた的確なアドバイスを心がけ、実際の具体例を提示し、時間を有効に使えるよう指導する。
3年	表現活動に対しての関心、意欲が十分に備わっており、自分なりに発想力及び技能を十分に発揮することができている。しかし、制作作業能力には、差異が見受けられる。	ほとんどの生徒が自分の課題に意欲的に取り組み、よりよい作品を創ろうと努力している。その結果、完成度の高い作品ができてきている。一方、進度の個人差は大きく、作業時間がかかりすぎるものや、技能面でやや力のない生徒もいる。	自分の思いを自由に表現できる喜びを実感できるように時間配分や制作の工程を意識させ、また具体的な表現方法を理解させる。個々に応じた具体的なアドバイスを行い、すべての生徒が表現手段を理解した上で集中して課題に取り組めるよう指導する。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点

- ◇運動の特性を知り、集団で安全に楽しく身体を動かすことができるようにする。
- ◇集団行動やラジオ体操・七中ストレッチなどを年度当初にしっかりと習得できるようにし、補強運動を含めて年間を通して実施する。
- ◇単元や種目ごとに記録を測定し、自分自身の現在の能力を把握することで、1時間の中で「できた」「わかった」が多くあるような授業にしている。
- ◇3年間を見通しての目標をたて、その目標に到達できるように、反復運動・フィードバック学習を行っている。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 元気がよく、積極的である。 ◇ 集団行動が理解させる。 ◇ 指示を聞いて、正しく理解し行動することを身に着けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 小集団での協力 ◇ リーダーシップの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 運動への知識や理解を深め、それぞれの種目の楽しさを教えていく。 ◇ チームスポーツにおいては仲間と話し合う時間を作る。 ◇ 生徒間の指示、伝達に対してはアドバイスをし、自信をもたせるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◇ チャレンジ精神もあり、積極的である。 ◇ 応用の動きになると、ついてこれなくなる。 ◇ 真面目に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ リーダーシップを発揮する生徒が少なく、協力し合うことが不十分。 ◇ 何回か同じ失敗を繰り返す。 ◇ 全員への話や説明を自分のこととしてとらえられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業中の集合隊形や話を聞く姿勢をしっかりとつくり、その後に指示や説明を行う。 ◇ 動きや方法を具体的に指示し、反復を意識させる。 ◇ 測定などにより、向上する意識を強く持たせる。 ◇ 役割を与える。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 記録更新や技術向上のために、積極的に取り組める。 ◇ わからないこと、知らないことに質問をする姿勢がある。 ◇ 話を聞いて行動することは不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 苦手な種目にも積極的に取り組む姿勢を身につけさせる。 ◇ 応用力など考える力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 一人ひとりの到達度や達成感を充実させるために個人の目標を明確にする。(記録測定や個人カード) ◇ 集団の中での話し合いを多く取り入れる。 ◇ 指示、助言がしっかりとできるようにする。

(8) 技術・家庭科

技術分野の重点

- ◇材料と加工の領域では、CD ボックス・本立ての製作、鑄造作品、エネルギー変換の領域では、センサーライトの製作を通して基本的な工具の使用方法を学べるように指導する。
- ◇生物育成の領域では、ナス・ピーマンを栽培し、土作りから環境保全まで学習できるように指導する。
- ◇情報の領域では、生徒全員に3年間で文書処理・表計算処理・プレゼンテーション用ソフトウェア等の基礎を指導している。また、能力に応じてより高度なテクニックも指導している。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇ものづくりの製作に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ◇生徒のなかには、工具の使用経験が乏しい生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心をつなぎ止めること。 ・生徒一人ひとりにもものづくりの達成感や充実感を体験させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入において本時の流れやねらい、作業手順を明確にする。 ・道具を活用し成功体験を増やし、個別指導に時間をかけるとともに全員に目が行き届くようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◇栽培活動では、作物の成長に興味関心を持ち、水やりや除草、追肥といった作業にも意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ◇ものづくりの製作に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、応用する力や作業への集中力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの作業が終わったら次どのような作業をするのかといった完成までの計画性や見通しが低い。 ・実物を見て、触って理解すること、生活の中において、ものづくりの実体験に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫までの工程をチェックできる作業シートを活用し、作業工程を把握できるようにする。 ・実物を用いて説明や実演し、見て、触って学ぶことで、実生活との結びつきを実感しやすいようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲的に取り組んでいるが、プリントなどに記載されている諸注意を見落としているので、効率の悪い作業をしている生徒がいる。 ◇家庭におけるパソコンの有無により文字入力や操作の差があるが、情報分野に関しては、興味関心を持ち意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント活用能力向上の指導と作業ポイントの助言に努め、作品見本の充実を目指す。 ・学んだ知識がその場限りになっていて、自分の生活にどう生かすかを考える機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本を参考に作業内容を考え、工夫するように助言する。 ・写真や資料、映像を用い、細かい手順を繰り返し参照できるようにする。

(8) 技術・家庭科

家庭分野の重点

- ◇意欲的に学ぶことができるよう、日常生活に使える小物作りや日常食の調理など、実践的な場を取り入れている。
- ◇基礎的な知識や技能を身につけるとともに、興味関心を高めさせることによって、内容をより深く学習させることができるようにしている。
- ◇段階標本や図、絵、ビデオなど視覚的教材を活用している。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	食生活に興味のある生徒が多くワークシートに必要な書き込み以外のポイントを書き加えることができる。課題をこなすことは出来るが、より工夫を伴った課題は苦手な傾向がみられる。	学習したことが実際の生活に生かせるよう、技能を伴った力を身に付けさせる。	短時間でも十分に指導ができるような基礎的な実習や実験を取り入れ、生活に生かせるような基本的な調理技術を身に付けさせていく。 知識をふまえて、工夫したり、表現したりする場面を授業の中に組み込んでいく。
2年	学習したことを自分の生活上の経験と比較することができる。衣生活に関して男子の興味が薄く、基本的な裁縫用語や道具の名前を知らない生徒が多くいる。製作において意欲の低い生徒が一部いる。	用語がわからないために、説明の内容が一部理解できない生徒がいる。作業の進度の差が大きく、遅れている生徒は全体の説明をした後日に作業をすることになり、内容を忘れてしまいスムーズに作業が進まない。 裁縫の技能の個人差が大きく、実際に目の前でやって見せないと、理解できない生徒が少なからずいる。	全体の説明を少し前に戻って繰り返すようにする。絵や図、見本など視覚的な要素を使って説明を定着させる。 作業が遅れてしまう生徒、説明だけでは理解できない生徒に対しては、全体説明に加えて、見本を見せながら個別指導をしていく。 形の完成とは別に、進度差の調節に役立つ教材を選ぶことで、基礎的な力の習得を徹底させる。
3年	ワークシートに必要な書き込みはほぼできているが、自分なりにポイントや理解を深めるための注釈を書き加えることの出来る生徒はあまり多くない。	時間配分を考えずに製作に凝る生徒がいて、時間内に作り終えることができそうにない。また、一部の生徒は自分で考えたデザインを実現させるための技能が不足している。	授業初めのガイダンスを活用して、指導計画と評価計画を説明する。 製作を通した技能の習得と知識の習得とを関連させて学習を進めることで、基礎・基本の定着を図る。 授業中の進み具合を個人レベルで把握して、個別に指導していく。 製作を通して身に付けさせたい力を事前に説明し、理解させる。

(9) 英語科

英語科の重点

- 4 観点をバランスよく取り入れた授業の実践
- 第2, 3 学年における少人数指導の充実
- 学力向上アシスタントや ALT の効果的な活用

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>小学校で外国語活動を体験しているためか、英語で自己表現することへの抵抗感は薄い。しかし、文字の認知力が低く、単語力が不足しているため、文を構成することが苦手である。</p>	<p>英語で自己表現しようとする意欲に反して、英文を読んで内容を理解したり、伝えたいことを英語で書く力に欠けている。</p> <p>単語を認知し、英文を音読する力は不足している。</p>	<p>日常的に単語の小テストを行い、長期休業明けを利用して、既習のスペリングテストを行い、語彙力を高める。また、多くの英文に読み込み、題材に関する興味を深め、英語そのものに対する学習意欲も高める。</p>
2年	<p>中野区学力調査では全項目においてほぼ平均値をとなっている。課題とする観点もすべて平均的に伸ばす必要がある。</p> <p>強いて言えば、語彙力が不足している傾向がうかがえるので指導していきたい。</p>	<p>単語を覚えたり、教科書の本文を暗唱する等の地道な努力を続ける生徒が少ない。</p> <p>根気強く長文を読んだり、英文の内容を推測しながら読むことを苦手としている生徒が多い。</p>	<p>少しずつ毎日取り組む課題を与えながら、自分で取り組めるような力を身につけさせる作業を積極的に取り入れる。</p> <p>教科書以外の長文に触れる機会や、日本語訳の理解に頼らない読み取りの活動を増やす。</p>
3年	<p>中野区学力調査では全項目において平均値を上回っており、3年間を通じて継続的な指導ができた。</p> <p>語彙力が不足している傾向があるので、基本的な語彙は全員に定着するよう普段の授業や家庭学習において指導方法を考えていく必要がある。</p>	<p>地道に単語を練習する生徒が少ない。集中力が低く、一度に多くの単語を練習することができない。</p> <p>ALT や学力向上アシスタントに積極的に質問をする生徒が少ない。授業内で関わる時間の確保が課題。</p>	<p>スペリングコンテストや単語テストで頑張った生徒をほめ、全体の意欲を高める。同様のテストを定期的実施する。</p> <p>授業内で生徒が質問をする時間や自分で考え、課題に取り組む時間を確保する。その中で自由に質問をし、会話をする時間を設定する。</p>